

3-4 情報の入手とコミュニケーション

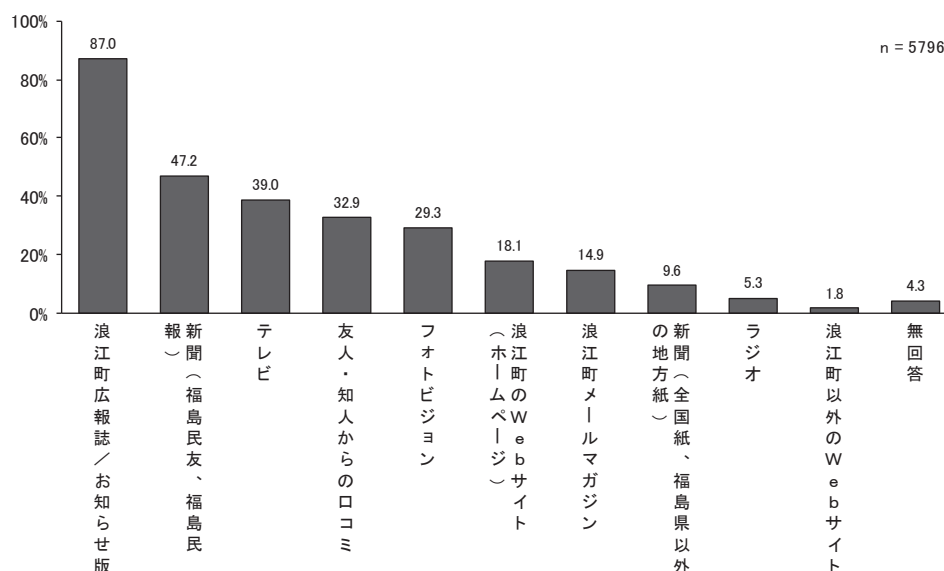
3-4-1 浪江町に関する情報の入手経路

問 12-1 普段、浪江町に関する情報を、どこでお知りになりますか。(〇はいくつでも)

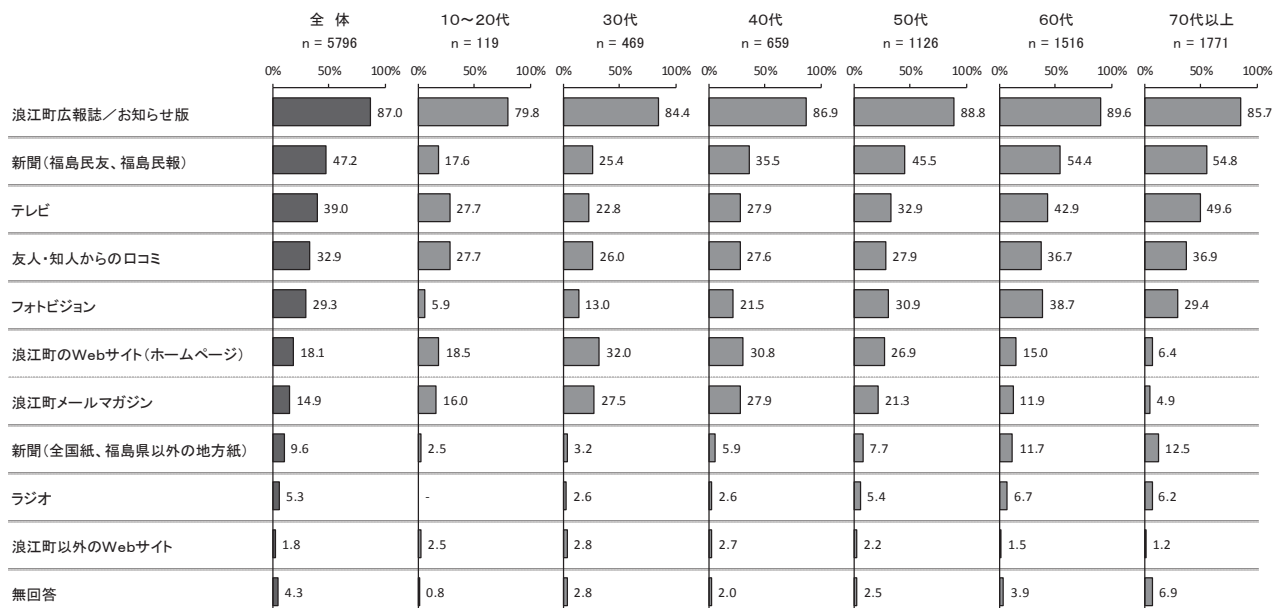
浪江町に関する情報の入手経路については、「浪江町広報誌/お知らせ版」が87.0%と最も高く、次いで「新聞(福島民友、福島民報)」が47.2%、「テレビ」が39.0%となっている。

回答者の年齢別にみても、「浪江町広報誌/お知らせ版」はすべての年齢で最も高くなっている。「新聞(福島民友、福島民報)」は60代(54.4%)、70代以上(54.8%)において過半数を占めている。また、「浪江町WEBサイト(ホームページ)」や「浪江町メールマガジン」は30代、40代で3割前後と他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-4-1-1 浪江町に関する情報の入手経路>

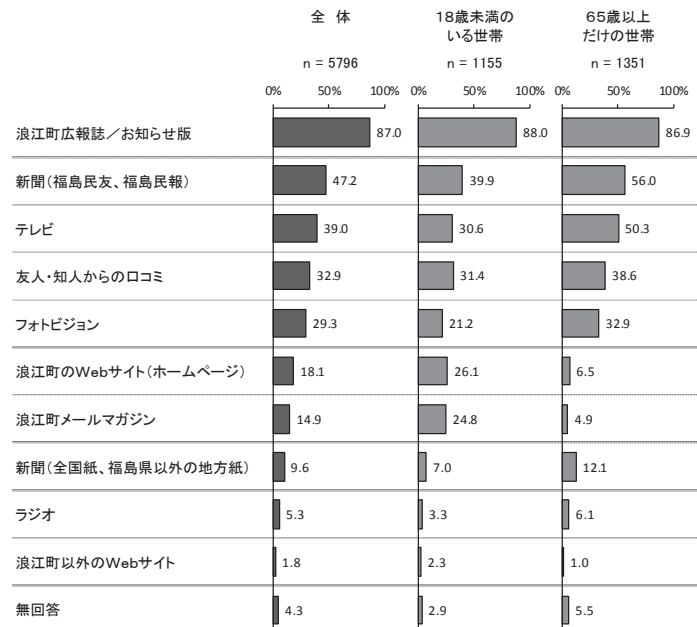


<図表3-4-1-2 浪江町に関する情報の入手経路(年齢別)>



世帯構成別にみると、65歳以上の世帯では「新聞(福島民友、福島民報)」(56.0%)、「テレビ」(50.3%)、「友人・知人からの口コミ」(38.6%)が18歳未満のいる世帯に比べ高くなっている。一方、18歳未満のいる世帯では、「浪江町のWebサイト(ホームページ)」(26.1%)、「浪江町メールマガジン」(24.8%)が65歳以上の世帯に比べ高くなっている。

<図表3-4-1-3 浪江町に関する情報の入手経路(世帯構成別)>



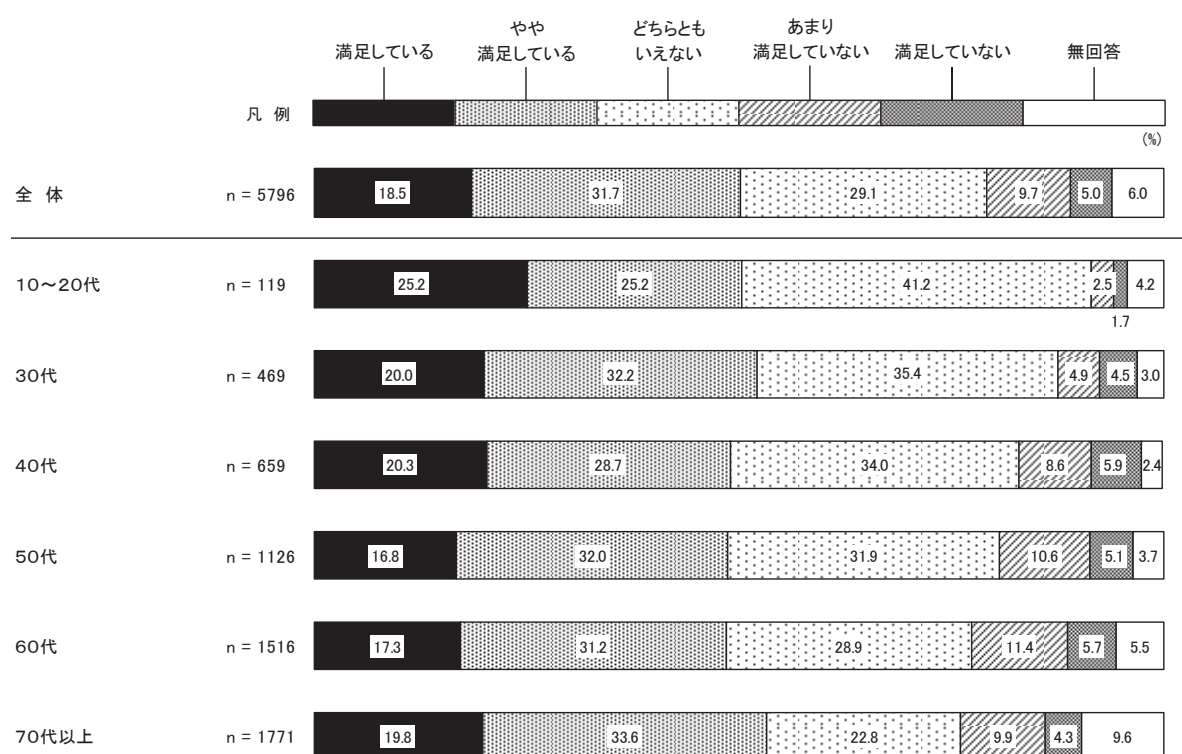
3-4-2 浪江町役場からの情報提供への満足度

問 12-2 浪江町役場からの情報提供にどの程度満足していますか。(〇は1つ)

浪江町役場からの情報提供への満足度については、「やや満足している」が31.7%と最も高く、「満足している」(18.5%)と合わせた『満足度』は50.2%と過半数を占める。

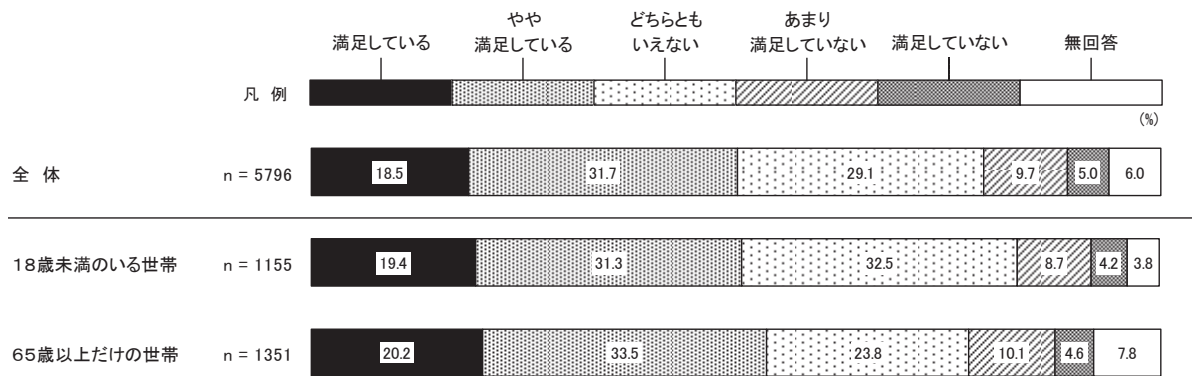
回答者の年齢別にみると、「満足している」は10~20代で25.2%と他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-4-2-1 浪江町役場からの情報提供への満足度(年齢別)>



世帯構成別にみると、世帯構成による特徴的な違いはあまり見られない。

<図表3-4-2-2 浪江町役場からの情報提供への満足度（世帯構成別）>



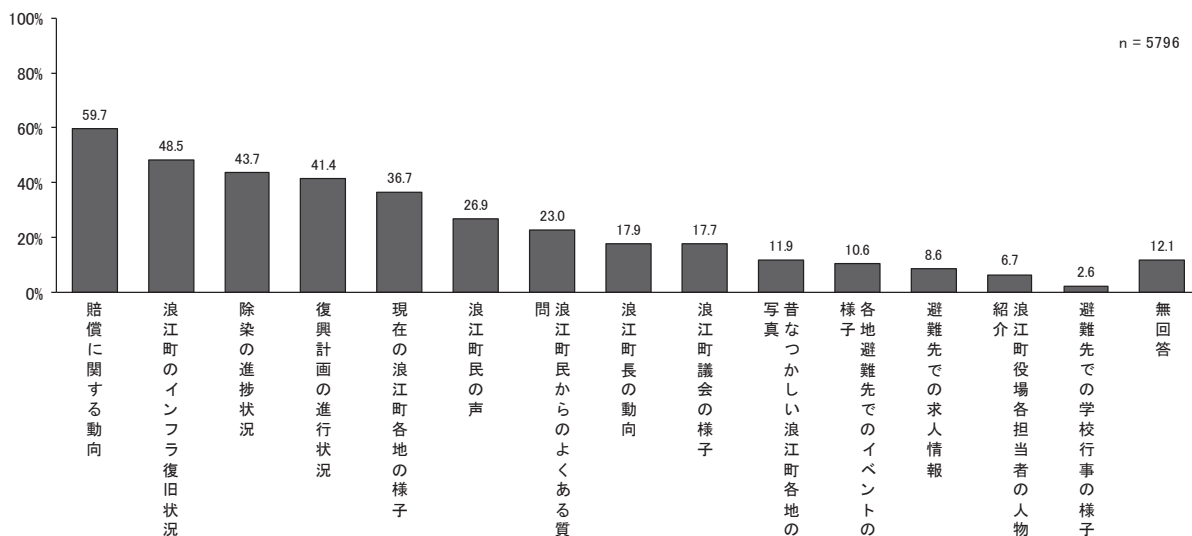
3-4-3 浪江町役場から提供してほしい情報

問 12-3 ホームページ、広報誌、フォトビジョンを介して、浪江町役場から提供してほしい情報はありますか。
(〇はいくつでも)

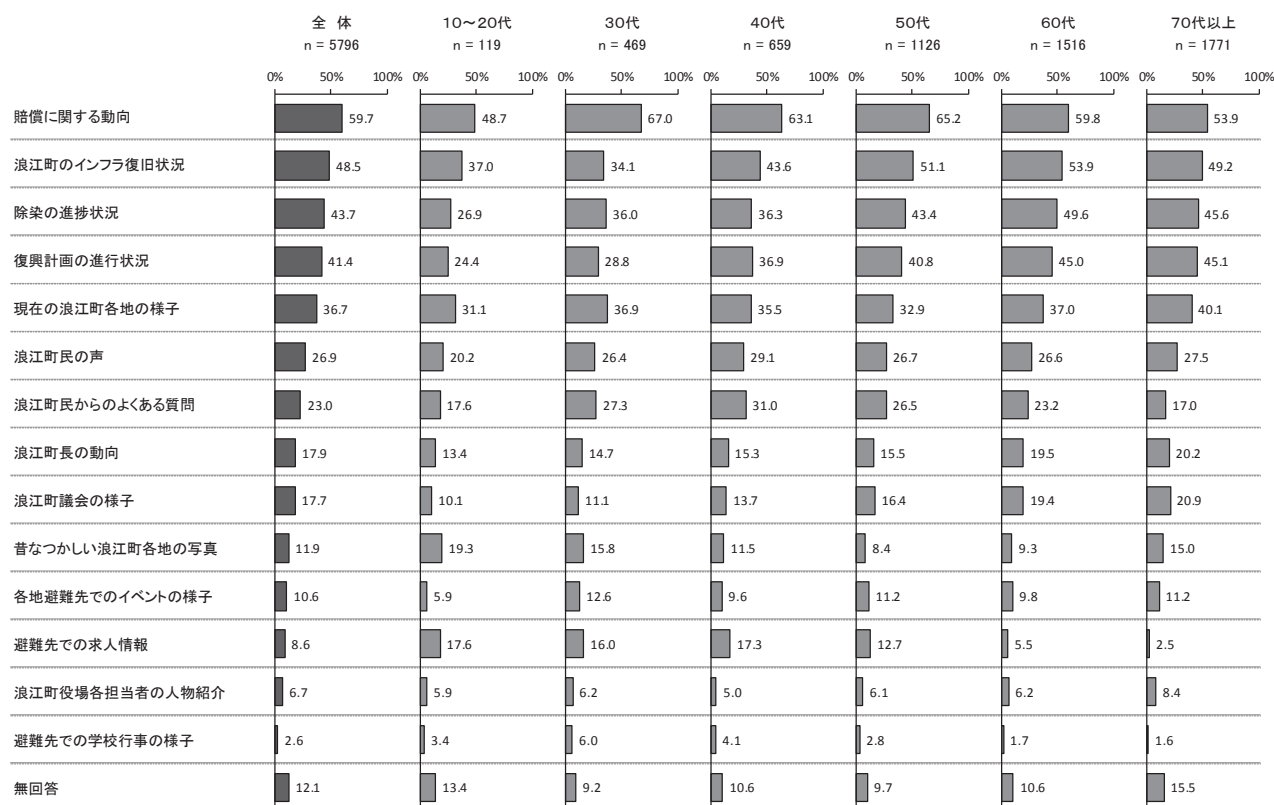
浪江町役場から提供してほしい情報については、「賠償に関する動向」が 59.7%と最も高く、次いで「浪江町のインフラ復旧状況」が 48.5%、「除染の進捗状況」が 43.7%、となっている。

回答者の年齢別にみると、「賠償に関する動向」は 30 代で 67.0%、40 代で 63.1%、50 代で 65.2%と 6 割以上を占めている。

<図表 3-4-3-1 浪江町役場から提供してほしい情報>

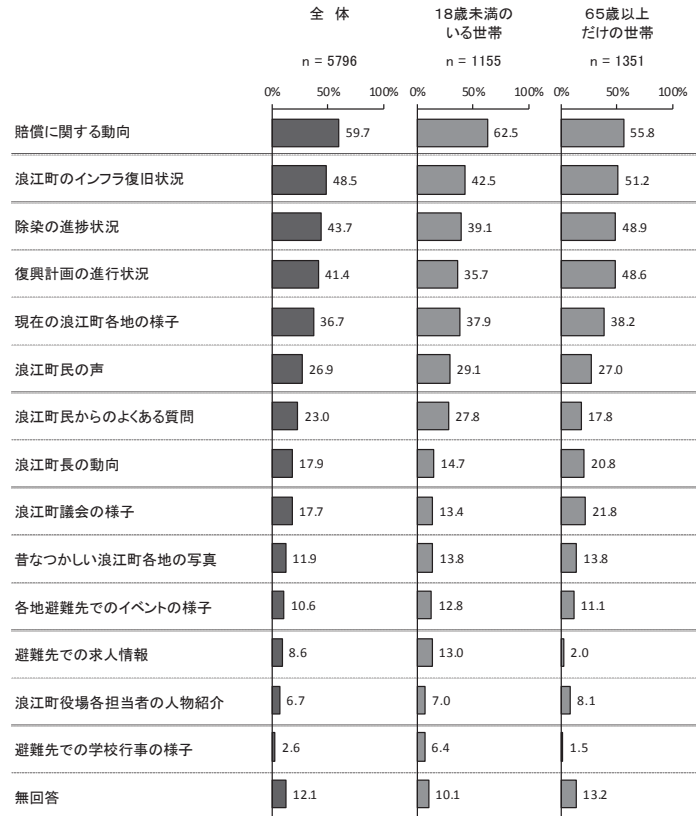


<図表 3-4-3-2 浪江町役場から提供してほしい情報（年齢別）>



世帯構成別にみると、「復興計画の進行状況」は65歳以上だけの世帯が48.6%と18歳未満のいる世帯に比べ高くなっているが、浪江町役場から提供してほしい主な情報について、世帯構成での大きな違いは見られない。

<図表3-4-3-3 浪江町役場から提供してほしい情報（世帯構成別）>



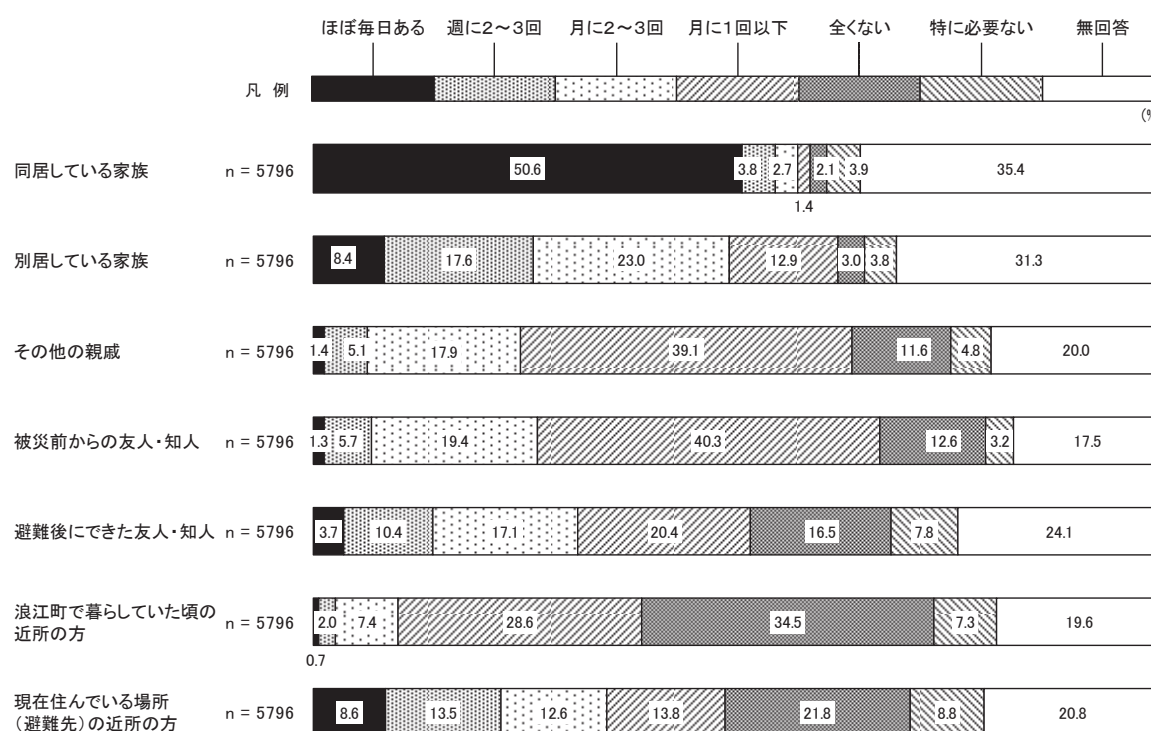
3-4-4 連絡を取り合う頻度

問 12-4 普段、以下にあげた方々（「1」～「7」）と、どの程度、連絡を取っていますか。（1つずつ〇）

① 連絡を取り合う頻度

連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で50.6%と過半数となっているが、それ以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に」2～3回）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が22.1%と高くなっている。また、「全くない」については、浪江町で暮らしていたころの近所の方が34.5%、現在住んでいる場所（避難先）の近所の方が21.8%と他の方に比べ高くなっている。

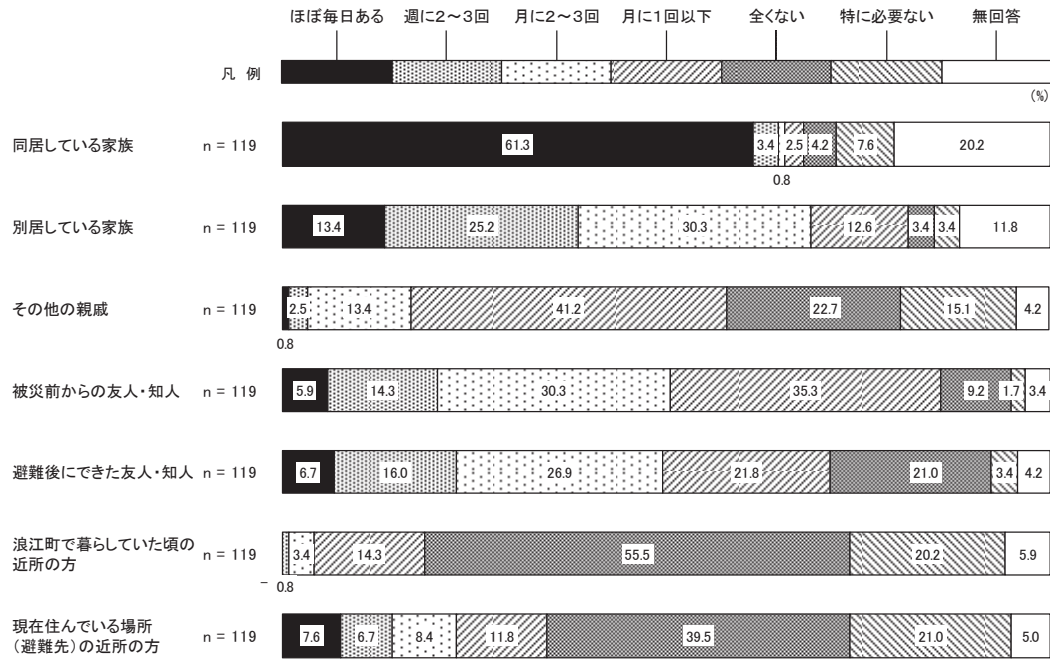
<図表3-4-4-1 連絡を取り合う頻度>



② 連絡を取り合う頻度：回答者の年齢別

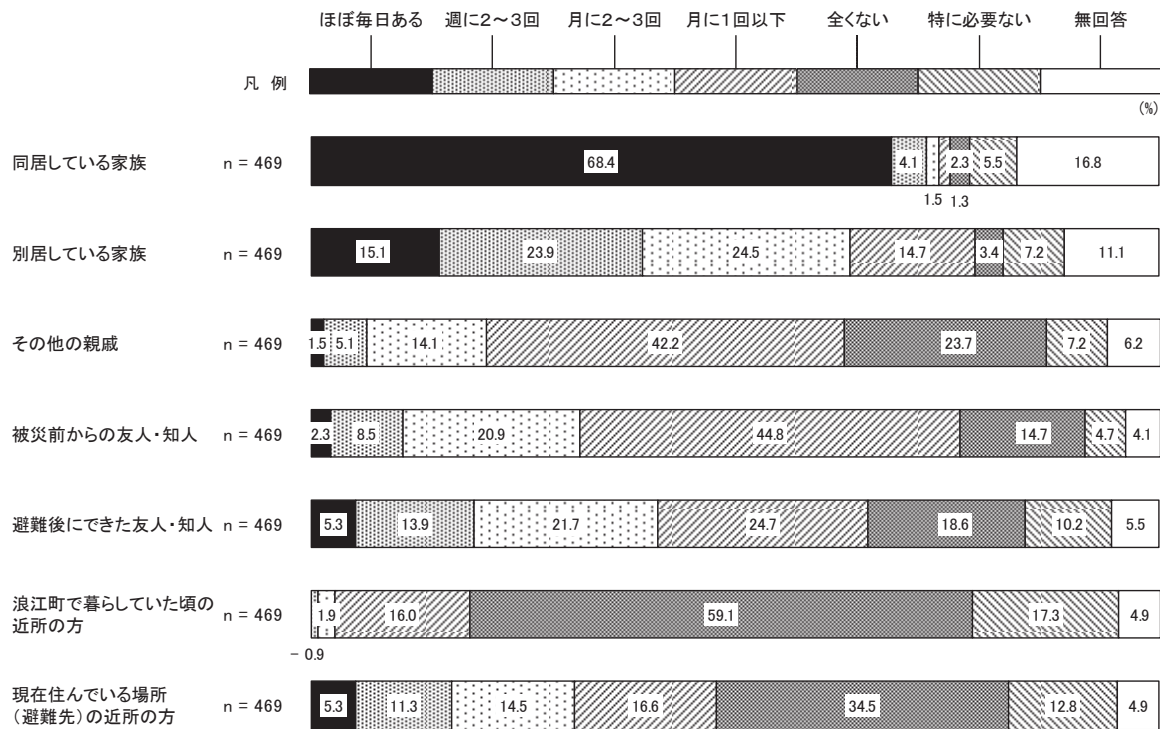
10～20代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で61.3%と6割を占めるが、家族以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「避難後にできた友人・知人」が22.7%、「被災前からの友人・知人」が20.2%と高くなっている。

<図表3-4-4-2 連絡を取り合う頻度（10～20代）>



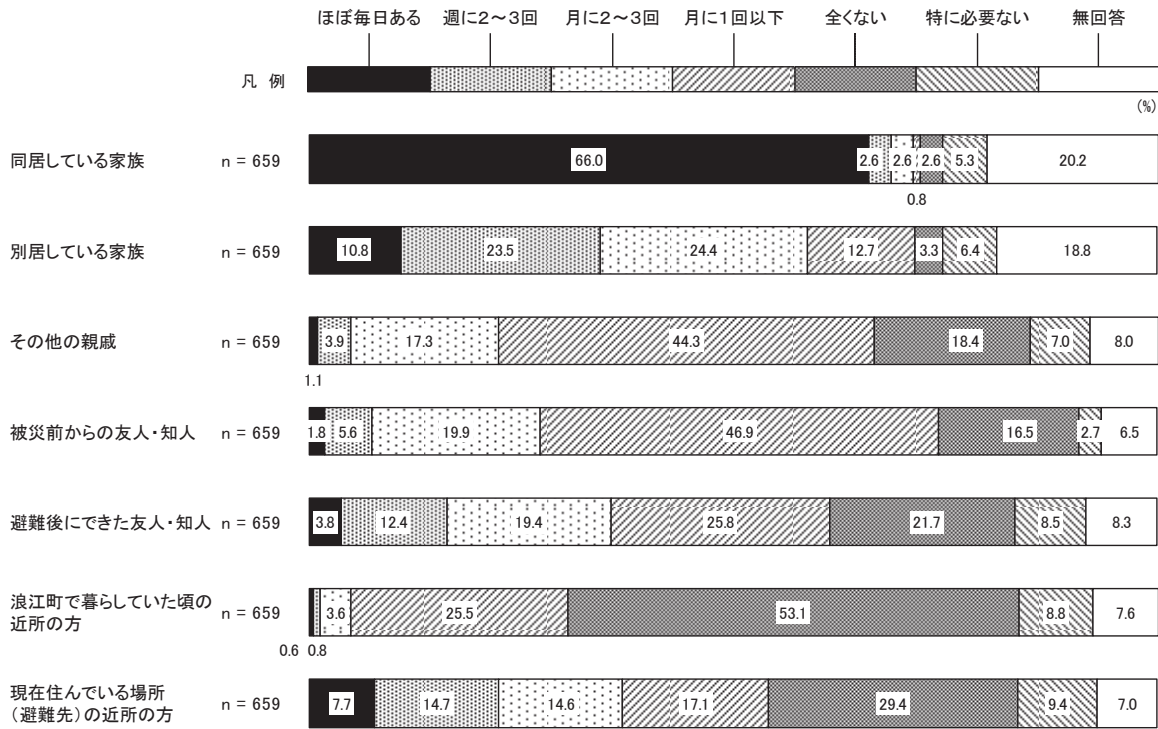
30代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で68.4%と7割弱を占めるが、家族以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「避難後にできた友人・知人」が19.2%、「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が16.6%と高くなっている。

<図表3-4-4-3 連絡を取り合う頻度（30代）>



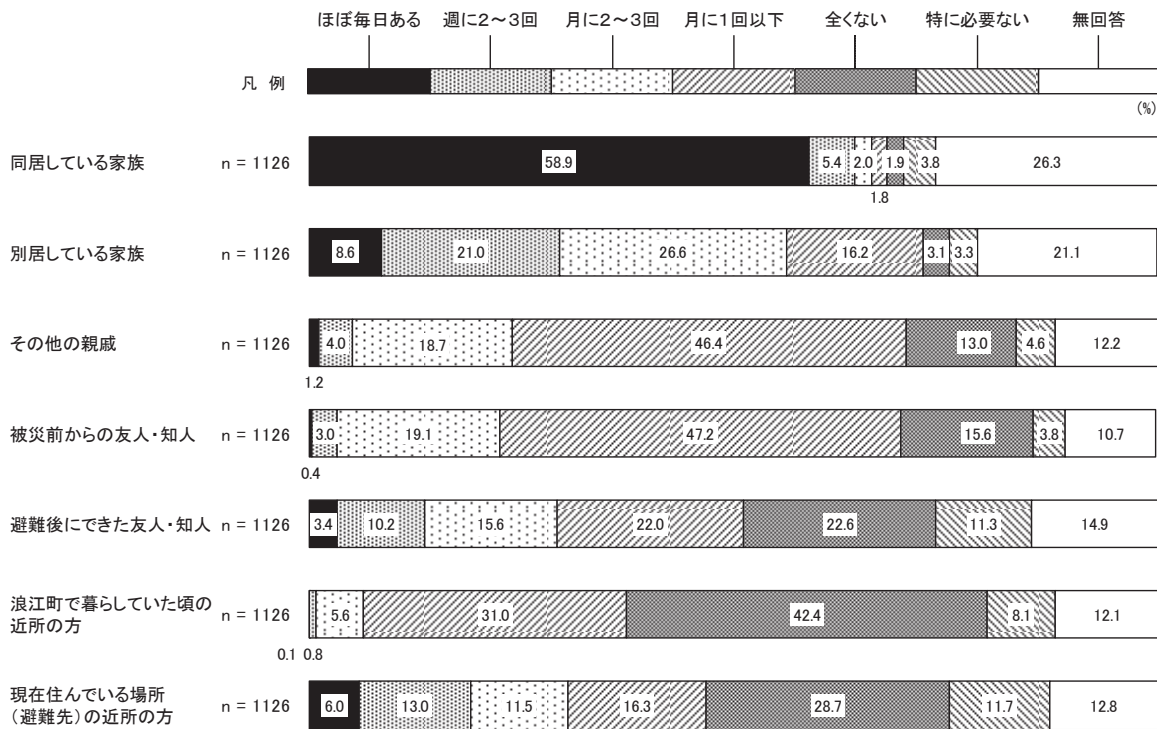
40代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で66.0%と7割弱を占めるが、家族以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が22.4%、「避難後にできた友人・知人」が16.2%と高くなっている。

<図表3-4-4-4 連絡を取り合う頻度（40代）>



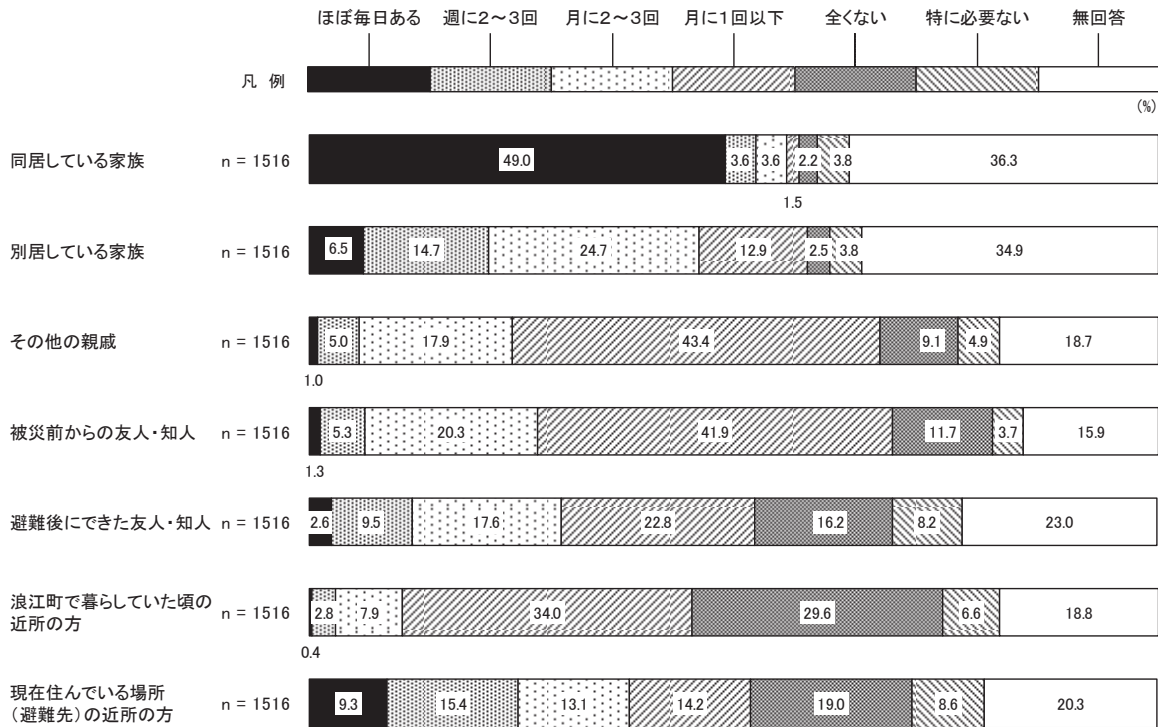
50代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で58.9%と6割弱を占めるが、それ以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が19.0%、「避難後にできた友人・知人」が13.6%と高くなっている。

<図表3-4-4-5 連絡を取り合う頻度（50代）>



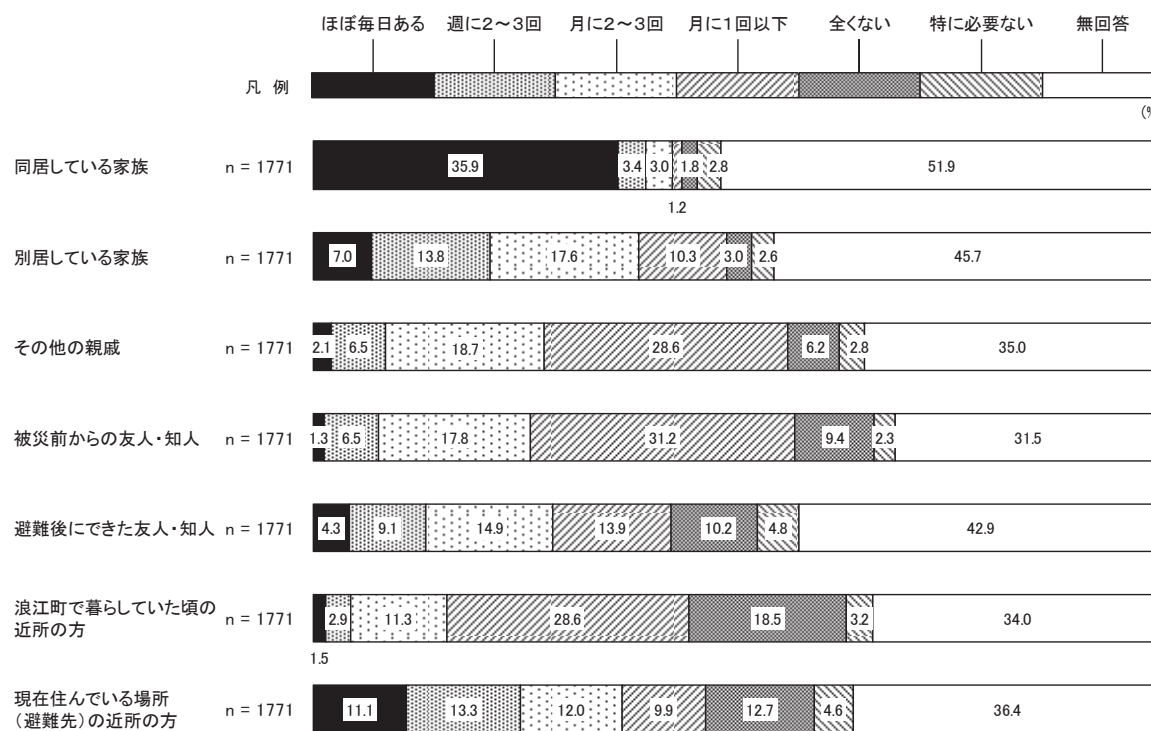
60代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で49.0%と最も高いが、他の年齢に比べ割合が低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が24.7%、「避難後にできた友人・知人」が12.1%と高くなっている。

<図表3-4-4-6 連絡を取り合う頻度（60代）>



70 代以上の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 35.9%と最も高いが、他の年齢に比べ割合が低い。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先の近所の方）」が 24.4%、「避難後にできた友人・知人」が 13.4%と高くなっている。

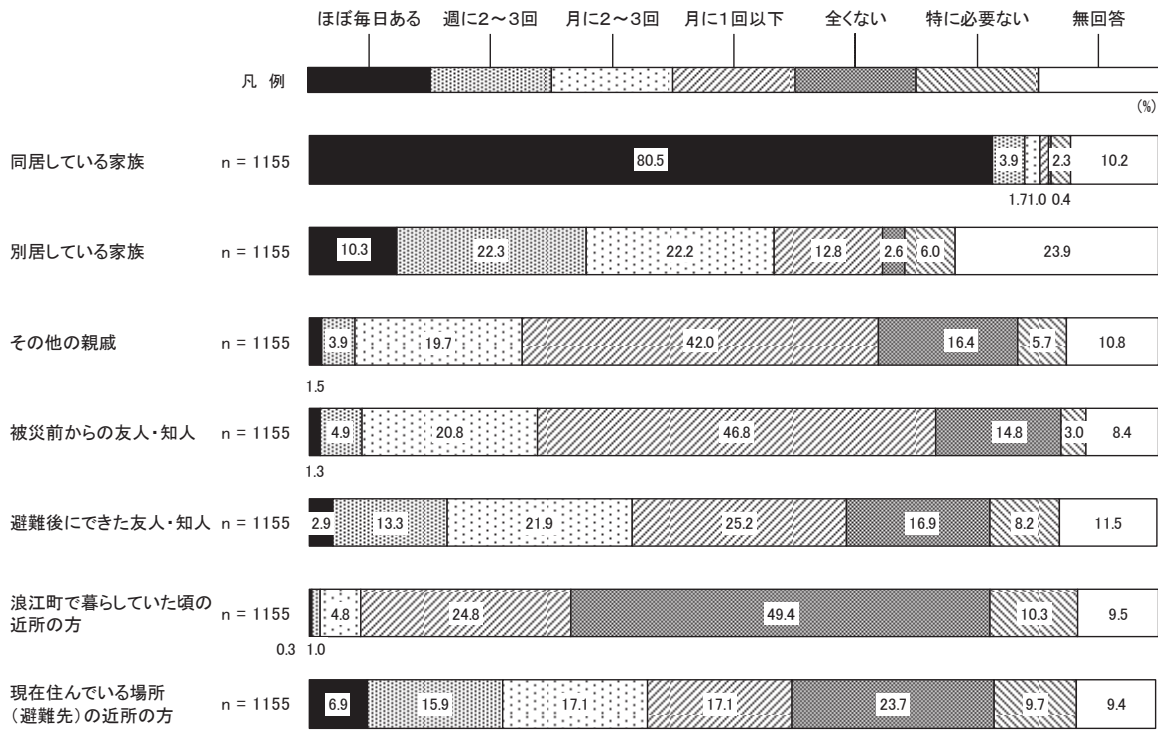
<図表 3-4-4-7 連絡を取り合う頻度（70 代以上）>



③ 連絡を取り合う頻度：世帯構成別

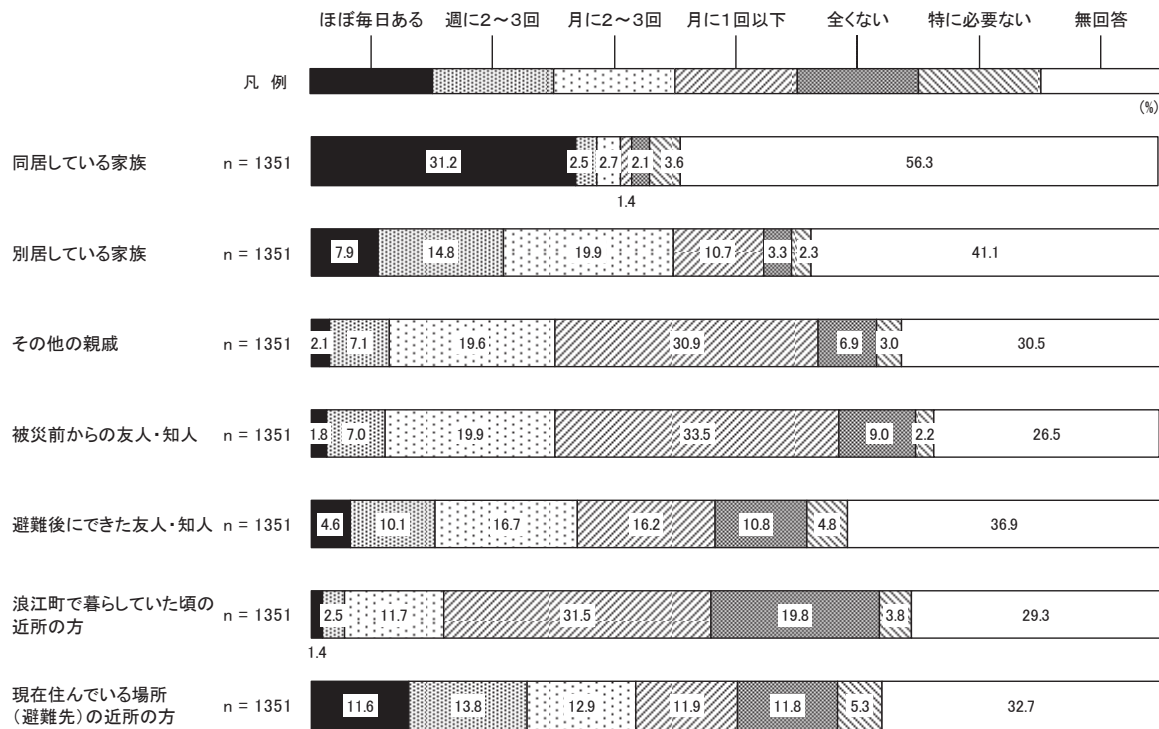
18歳未満のいる世帯の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で80.5%と8割以上を占める。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先の近所の方）」が22.8%、「避難後にできた友人・知人」が16.2%と高くなっている。

＜図表3-4-4-8 連絡を取り合う頻度（18歳未満のいる世帯）＞



65 歳以上だけの世帯の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 31.2% と 3 割強を占めているが、18 歳未満のいる世帯に比べ低い。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先の近所の方）」が 25.4%、「避難後にできた友人・知人」が 14.7%と高くなっている。

<図表 3-4-4-9 連絡を取り合う頻度（65 歳以上だけの世帯）>



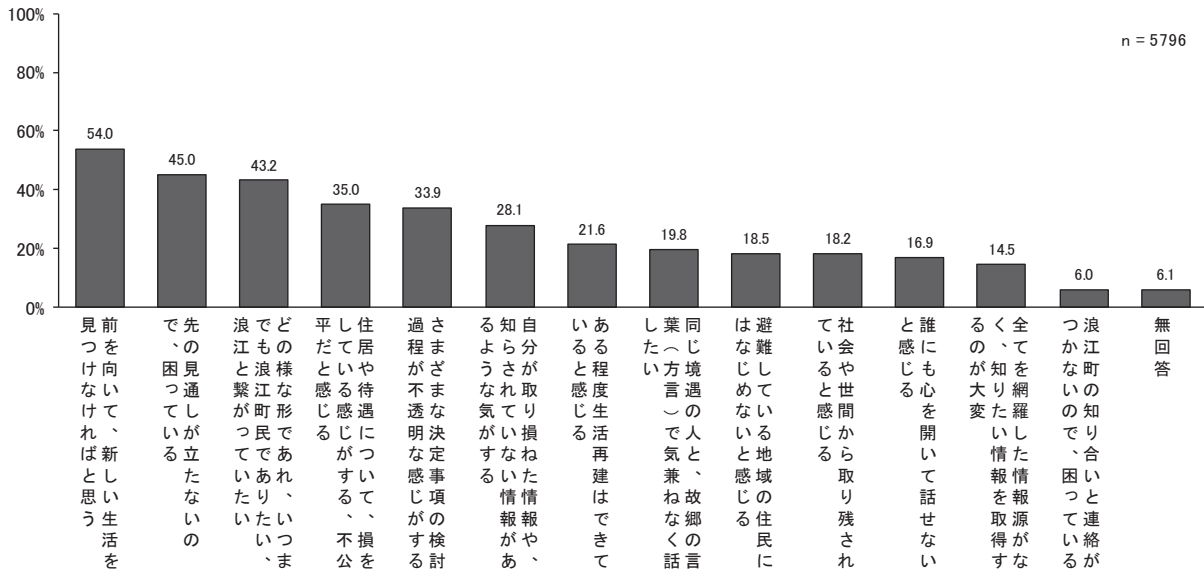
3-4-5 現在の気持ち

問 12-5 現在のあなたのお気持ちに近いと思われることについて教えてください。(〇はいくつでも)

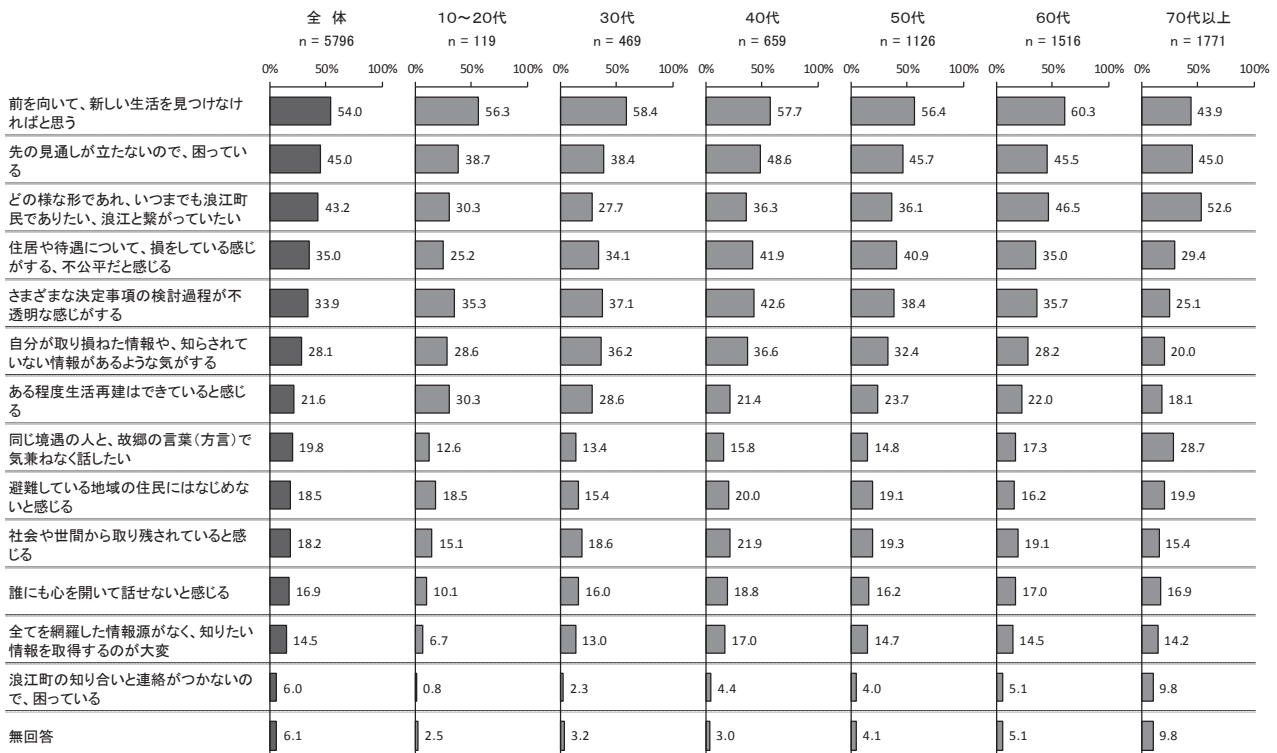
現在の気持ちについては、「前を向いて、新しい生活を見つけなければと思う」が 54.0%と最も高く、次いで「先の見通しが立たないので、困っている」が 45.0%、「どの様な形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がっていたい」が 43.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「前を向いて、新しい生活を見つけなければと思う」は 60代(60.3%)、「どの様な形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がっていたい」は 70代以上(52.6%)となっており、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表 3-4-5-1 現在の気持ち>



<図表 3-4-5-2 現在の気持ち(年齢別)>



世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では「どのような形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がってほしい」が53.0%と最も高くなっている。一方、18歳未満のいる世帯では、「前を向いて、新しい生活を見つけなければと思う」が58.1%と最も高くなっている。

<図表3-4-5-3 現在の気持ち（世帯構成別）>

